

# 土地改良

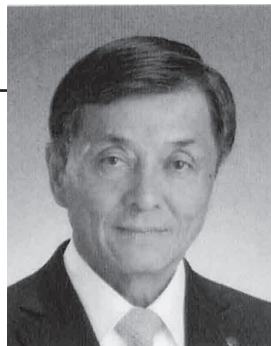
◆農業の多面的機能を活用した交流型農村ビジネスについて考える 大江靖雄  
◆豊かな水土里を次世代に——中越地震からの迅速な農地、農業用施設の復旧



## 建設会社のパプリカ栽培

東急建設株式会社

社長 飯塚 恒生



東急といえば渋谷、渋谷といえば若者の街といったことが、すぐに頭に浮かびます。これに続いて、弊社、東急建設の場合も多くの人たちがその名前を聞くと、鉄道と都市再開発を連想する場面が多いようです。

実際、東急東横線と東京メトロ副都心線を終電から始発までの限られた時間で路線をつなぎ相互直通運転を可能にした渋谷〜代官山間の地下化切替工事や渋谷再開発の先駆けとして計画されたオフィス、文化、商業複合ビル「渋谷ヒカリエ」などは、最近の弊社が参加した代表的なプロジェクトです。このような事業は、規模も大きく、出来上がった施設を利用する人も多数であることから、たびたびマスコミに取り上げられています。このため、同業他社の皆様だけでなく、社会からも関心を寄せられていると自負しています。

このように都市型の建設会社と一般的に認識されている弊社ではありますが、昨年からは、茨城県で野菜用の大型ガラス温室を設置し、パプリカの栽培に取り組んでいます。

霞ヶ浦に面している美浦村にあった遊休農地2.7haを借地し、そこに2haのガラス温室を建設しました。パプリカは、土を使わず養液で生産します。弊社は、農作物の生産や販売の経験がありませんから、これらのノウハウを持っているリッチフィールドという会社と共同出資し、一般農業法人を設立しました。この法人が育成から収穫を行い、販売はリッチフィールドが担当します。この会社は、これまで、東北や九州などでパプリカとトマトの生産や販売を続けてきていて農業法人格も持っています。また、パプリカの栽培に当たっては、パート従業員として20人程度を地元の美浦村から雇用することと

しているため、雇用の確保に腐心している村当局からも期待を寄せられています。

現在、想定している事業期間は20年間としており、長期的に取り組んでいくこととしています。なお、初めての収穫は、今年の11月頃から予定しており、順調な生育を期待しているところです。

パプリカは、ビタミンA、C、Eなどの成分含量が高く、動脈硬化症などの予防に効果が高いと評価されています。また、赤、黄、オレンジなどの色が美しく、サラダや中華料理などの彩に重宝される野菜です。国内の生産量は2500t程度で、その一方、輸入量は2万5000t程度と大幅な輸入超過になつていて、主な輸入先は、韓国とオランダです。

以前に比べて、一般家庭でも外食でもパプリカを目にする機会が増えてきているように、消費量は年率で10%以上の割合で拡大してきています。このため、外国からの輸送コストや鮮度の確保などの面を考えると、国内産は競争力があると考えています。

養液栽培によって生産管理が厳格に行われることになっていきますが、作物は生き物であり、今後、生育不良や病虫害の発生が皆無とはいえないと認識しています。しかし、このような課題を愚直に解決し、品質が高いパプリカを生産して市場価値がある価格で消費者に供給し、消費者に選択してもらえようにしていくことを目標としています。

将来、皆さんの食卓に弊社が生産するパプリカが登場すること、和洋中など様々なレストランで楽しんでもらえることができるよう努力していきたいと考えています。これに加えて、いささかなりとも、美浦村の農業の活性化に貢献できるよう、パプリカの生産に腰を据えて取り組んでいくこととしております。